

4. 東京都技術情報連絡協議会の設置について

1. 東京都技術情報連絡協議会の設立趣旨

2007 年問題に代表されるベテラン職員の大量退職を間近に控え、これまで蓄積してきた技術の継承を今組織的に実施しなければ、技術力の低下が顕在化し、都民へ良質な社会資本を提供するという責務を果たし得ない可能性が生じる。今日、公共事業に関する技術の散逸を防止し、技術情報を蓄積し活用していくことは喫緊の課題である。

一方、公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)が施行され、公共工事の施行にあたり、透明性の確保、品質・技術力の重視が強まっている。我々自治体職員はこれまで以上に技術力向上に努めることが重要である。

これまで東京都の各局では、都市基盤施設の建設・管理に係わる技術について、それぞれ独自に研究・調査・開発を行い、事業部を支え技術力を高めてきた。ところが、これらの貴重な情報が局内に留

まり、十分に活用されていないという事例も見受けられる。事業を進める中で、多様化し複雑化する様々な技術情報を各局の技術職員が共有化し、互いに活用していくことが極めて重要である。このため、貴重な技術情報を一局の財産としてではなく、全都庁の財産として次世代へ引き継ぐことが求められている。

このような状況の中、第 62 回東京都技術会議では新技術情報のワンストップステーション化とこれに向けての東京都土木技術センターの活用が提言された。これを受け、これまで各局で集積されてきた有用な技術情報の集約化を図り、互いに情報提供することで、各局の職員が活用できるような環境を作り、併せて東京都の技術に関する情報交換や意見交換を行う場として、「東京都技術情報連絡協議会」(以下協議会という)を設立した。

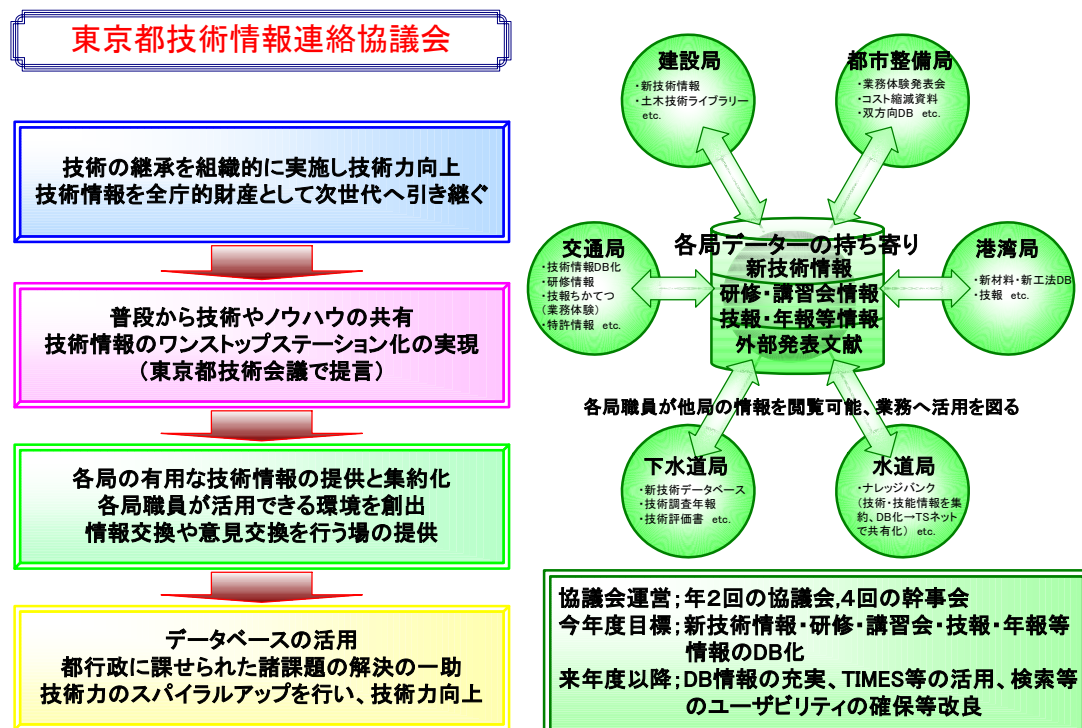


図-1 協議会のイメージ

2. 協議会の概要

協議会では、活動方針、活動内容等について各局の合意を得るとともに、「東京都技術情報連絡協議会設置要綱」を制定して、協議会活動を開始した。協議会は、情報の一元管理、活用方法の検討、全都庁の財産として次世代への継承、職員の技術力の維持向上を目的とする。協議会の活動内容のイメージを図－1に示す。協議会の概要は以下のとおりである。

- ① 協議会は、東京都の技術に関する情報交換や意見交換及び情報の活用等の検討を行う。
- ② 協議会メンバーは、主に公共施設の建設及び管理を行っている建設局、都市整備局、港湾局、交通局、下水道局、水道局の6局とする。
- ③ 委員は各局の新技术の選定等を担当する課長とし、委員長は土木技術センター所長とする。
- ④ 各局の技術情報は電子化した上で、都の技術情報の窓口としての土木技術センターに集め、整理した上で各局に発信する。各局は配信された情報を自局の職員が活用できる環境を整え発信する。

3. 協議会の活動内容

平成19年度の活動計画は以下のとおりである。

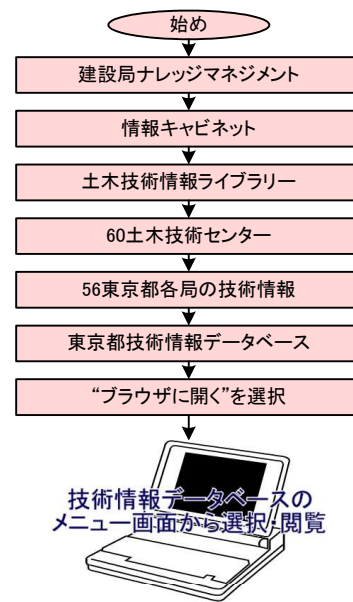
- ① 実務者レベルの幹事会を年4回程度、協議会を年2回程度開催する。
- ② 各局から提供される新技术情報、研修・講習会資料等技術情報の質・量の充実を図る。
- ③ 順次、研修・講習会資料、年報・技報、外部発表文献など情報を掲載し、技術情報データベースを発展・充実させ、技術力向上のスパイラルアップを図る。

4. 技術情報データベースの内容

各局から提供された技術情報をデータベース化して一覧化したものが図－2である。建設局では、このデータベースを「土木技術情報ライブラリー」にマウントアップして、局内の技術職員に状況提供し



図－2 データベースのメニュー画面



図－3 建設局での技術情報公開

ている。建設局職員は「建設局ナレッジマネジメント」から図－3の手順でアクセスすることで、技術情報データベースを閲覧することができる。

東京都土木技術センター年報(平成18年度) 目次

まえがき		 会・人に渡る	
I 調査研究編(要旨)			
要旨			
II 調査研究編(本文)			
1	歩車道境界縁石モデルの現道歩行実験	要旨	本文
2	NO _x 除去舗装の性能評価法と機能の持続性	要旨	本文
3	環境舗装発生材の再生に関する検討	要旨	本文
4	切削打換工法で施工した低騒音舗装の性能評価	要旨	本文
5	歩道における理屈評価方法の基礎的検討	要旨	本文
6	轆轤重走行疲労試験機を用いた道路橋床版の共通試験	要旨	本文
7	神田川流域における水害時の降雨特性	要旨	本文
8	中川下流部における河川表流水の塩分濃度特性	要旨	本文
9	秋津から春津に至る街路樹緑陰下の外気温の変化	要旨	本文
10	平成17年の地盤沈下	要旨	本文
11	野川上流域の水文環境の考察	要旨	本文
12	多摩地域の急傾斜地崩壊危険箇所	要旨	本文
13	沖積層の重金屬含有量(その1)	要旨	本文
14	東京低地の既設橋梁をモデル化した橋脚—基礎系の動的連心荷重実験	要旨	本文
15	東京低地の既設橋梁をモデル化した橋脚—基礎系の耐震解析	要旨	本文
16	道路橋の震災時交通復元リスク評価法	要旨	本文
17	丸の内の保水性舗装に散水した場合の気温・湿度と熱輸送量	要旨	本文
III 資料編			
1	浅層地下水の観測記録(平成17年度)		本文
2	民間新技術の活用状況に関する調査結果		本文
3	ヒートアイランド対策への地下水(井戸水)の活用に関する実地調査		本文
4	野川上流域における地下水・湧水および河川環境		本文
5	平成17年の地盤沈下、地下水位観測記録		本文
6	平成17年度の強度観測記録		本文
IV 総編			
1	土木技術センターの技術支援の概要		本文
2	研究発表会と講習会		本文
3	土木技術のアーカイブス<過去の重要資料の活用>		本文

H17年報目次 H18年報目次

図-4 技術情報（土木技術センタ一年報目次）

例えば、図－２のメニュー画面で“技術資料”欄の建設局“年報・技報等”をクリックすると、図－４のような年報目次ページ画面が表示され、仮にⅢ資料編２「民間新技術の活用状況に関する・・・」の本文をクリックすると、図－５のような pdf ファイルを閲覧できるようになっている。

- 現在、閲覧可能な情報の種類としては、
- ① 新技術情報データベース（民間が開発した新材料・新工法のデータベース）
 - ② 年報・技報関係
 - ③ 業務体験発表会

となっているが、今後、各局で行っている「講習会・講演会」等の技術情報や「技術ニュース」「技術研修実施状況」などの最新情報等もデータベースに加え、内容の充実を図っていく予定である。

平18. 都土木技術センター年報
Annual Report
C.E.C., TMG 2006

ISSN 0387-2416

2. 民間新技術の活用状況に関する調査結果

Results of an investigation about the practical use situation of Private Development New Technology

技術支援課 馬場 敏、穴戸 薫

1. はじめに

近年、耐震偽装事件や統合事件が騒がれ、建設業界の急激な変化が大きくクローズアップされた。市民の信頼を回復していくためには、このような問題を直接的に解決していく必要があることはもちろんであるが、技術者ひとりひとりが現場の課題に真摯に対処していくことが重要である。こういった現場技術者を支援し、より良い社会資本構築を進めていくためには、都としての技術支援システムの充実が欠かせない。

建設局では、現場における技術的課題の解決手法のひとつのシステムとして、民間等の技術力を有効に活用するための「新技術評価選定制度」（以下「選定制度」という。）を立ち上げ、運用してきた。この制度の目的、概要、データベース、活用事例について、平成17年度土木技術年報「民間新技術の評価・選定と活用状況」にまとめてあるので参照願いたい。

平成17年度年報では、情報提供の方法として、局内への情報提供の方法のみ記載したが、本報告では対外的な情報提供の方法（提案者や第三者による登録状況の確認、設計委託時のコンサルタントへの情報提供）について補足説明する。

さらに、すでに登録された新技術が、どれくらい活用されているかを調べるため、新技術の協会会社へ直接アンケート調査を行った。本報では、その結果を報告する。

2. 新技術情報の提供方法

選定制度は、平成10年度にスタートし、現在は「新技術情報データベース」（以下「データベース」という。）として情報提供している。

平成17年末までにデータベースに登録したの件数は184件である。この中には、新技術提案者自

図-5 技術情報（年報の内容 pdf 形式）

5. 技術情報データベースの課題

現在の技術情報データベースで約 650MB (CD-R 1 枚分) の電子データとなっている。このため、各局が分散処理していくのは効率的でない。したがって、全庁的なサーバーを確保することが重要である。さらに、ある項目に関する情報を調べたい時に必要となるデータ検索機能の付加も、ユーザビリティの確保から重要である。

また今後は、現在のデータベースではワンウェイのやり取りであるため、「〇〇の技術で教えていただきたい」といった、双方向の情報交換に対する要求も生じるものと考えられる。「電子掲示板」や「相談箱」のような情報共有に関する模索も必要となろう。

技術情報データベースの活用によって、都庁職員が、普段から技術やノウハウの共有を図り、その結果として次世代へ技術情報の伝承を実現できれば幸いである。